

令和4年度 第2回加西市総合教育会議 会議録

1 開会日時 令和4年10月24日(月) 15時30分

2 閉会日時 同日 16時55分

3 開催場所 加西市役所 4階会議室(大)

4 出席委員 市長 西村 和平
教育長 民輪 惠
教育長職務代理者 沼澤 郁美
委員 楠田 初美
委員 中川 和之
委員 深田 英世

5 委員及び傍聴人を除き、会場に出席した者の氏名

ふるさと創造部長	藤 後 靖
ふるさと創造部 人口増政策課長	小 菊 啓 靖
ふるさと創造部 人口増政策課係長	岩 野 裕 之
教育委員会事務局 教育部長	千 石 剛
教育委員会事務局 教育総務課長	伊 藤 勝
教育委員会事務局 課長(未来型児童館担当)	井 上 英 文
教育委員会事務局 学校教育課長	安 富 重 則
教育委員会事務局 こども未来課長	丸 山 常 基
教育委員会事務局 生涯学習課長	北 島 悦 乃
教育委員会事務局 図書館長	伊 藤 陽 子
教育委員会事務局 総合教育センター所長	工 藤 憲 人

6 傍聴者 一般：2名、報道機関：0名

7 協議事項

(1) 令和5年度予算について

(2) 「加西市未来の学校構想検討委員会」からの答申及び「加西市未来の学校構想ワークショップ」の実施状況について

8 会議内容

別紙のとおり

会議録

次第

1 市長挨拶

2 教育長挨拶

3 協議事項

(1) 令和5年度予算について

〔意見・質疑〕

委員 加西市は子育てに関する様々な政策を打ち出している一方で、保育士確保等の課題を抱えているため、是非、改善に向けた予算の確保をお願いしたい。

市長 保育所・認定こども園の保育料の無料化が始まったが、応募状況はどうか。

事務局 10月の状況として、新規申込の27件と、既に申込のあった30名と合わせて57名の入所希望があった。そして、30名が入所し、27名が入所できない状況で、そのうち3名の辞退があったため、残り24名が保留状態（希望する園とマッチングできなかった方）にある。子ども20名枠の保育士を追加するとともに、来年、小規模保育園2園を開設するため、たくさんの保育士が必要である。4月の開設に向けた人材確保のため、12月に補正予算を計上する予定である。

市長 急ぎ体制を整え、対応していかないといけない。

事務局 保育士確保に向けた各市町の対策として、加古川・明石・神戸等では、最大6年から7年で150万円程度の手当てを行っており、加西市は3年で72万円という状況である。

ただ、人材紹介会社に補助を行うという取組は他市町でも実施しておらず、新たに転職・登録しようとされる方をターゲットとして提案している。

市長 0～2歳の保育料無料は他市町にない施策であるため、受け入れ体制もしっかりと対応していきたい。

委員 公民館の施設整備について、体育館にエアコンを付けてほしいという市民からの要望があった。

事務局 現状、エアコンが設置されている公民館の体育館は、善防公民館のみとなっている。北部公民館と南部公民館の体育館にはエアコンが付いていないため、イベントを開催する際には、エアコンが設置されている別会場へ移す等の手立てを行っている。

委員 施設の老朽化対策にも力を入れてほしい。また、校内フリースクールや発達支援プログラム等、新たな取組を始めるにはスキルのある人材を確保する必要があるので力を入れてほしい。さらに、総合教育センターに公用車が無いのは寂しい状況である。教育に関する予算は出来る限り付けてほしい。

委員 加西市では不登校にある児童・生徒が増加傾向にあるため、前向きに検討いただきたい

い。また、公用車については、既存の車を1台回すなど工夫していただきたい。

事務局 市では脱炭素化社会実現に向けた取組を進めており、今後、新たな公用車の購入やEV化等については、出先機関を含め、全庁的に計画し、対応していく予定である。

教育長 不登校問題については、とても深刻であり、一人一人の居場所づくりのため、場所だけではなく人材確保も含め、出来る限り早く対処していきたい。

委員 現状、不登校の児童・生徒に総合教育センターの適応教室を紹介しているが、場所が遠いため通えないという声が多い。

委員 引き続き、STEAM教育に力を入れていただきたい。また、少子化にあるなか、子ども・保護者・地域と一体となったコミュニティスクールの充実をお願いしたい。さらに、不登校がずっと増え続けている状況であるため、フリースクールを進めてほしい。

教育長 学校内にフリースクールを設置しても、そもそも不登校の子どもには意味がないとも言われるが、できるところから着実に進めていきたいため、校内フリースクールを色々な選択肢の1つとして提案したい。

委員 「GIGAスクール構想」推進に伴うICT支援員の人材不足について、各地区に設置されているふるさと創造会議で募集するなど、地域の中で募ってはどうか。一人でも多くの人材を確保すべきであると思う。

委員 中学校の部活動を地域に返していくという国の方針は、人材確保や教育との連携を含め、非常に難しい状況である。今後、よく考えていかないといけない。

委員 部活動指導員について、短時間で数回来ていただくというような条件では若い指導員などは集まらず、続かないと思う。人材確保のため、定着してもらえるような待遇条件を考えていかないといけない。

(2)「加西市未来の学校構想検討委員会」からの答申及び「加西市未来の学校構想ワークショップ」の実施状況について

〔意見・質疑〕

委員 第1回のワークショップに参加したが、アットホームな雰囲気づくりが上手にできていた。最終的に集約したご意見を検討し、修正すべきところは対応を行いながら前に進めていきたい。

委員 私も第1回のワークショップに参加したが、教職員や関係者が多かったように思ったので、各地域にあるふるさと創造会議等で参加呼びかけを行ってはどうか。

市長 できるだけ多くの方に検討委員会での議論の結果を聞いていただいて、ご意見をいただきたい。

委員 特に保護者の方がたくさん参加して下さった方がいいと思うので、呼びかけを強化してもらいたい。

事務局 ワークショップの開催前には、各小中学校の単位PTAの会合に出席して案内をした

り、こども園でも全てではないが送り迎えの保護者へ案内をさせていただいた。こちらとしても出来る限り保護者に参加してもらいたいと思っている。

委員 例えば参加できない方に対し、HPで意見募集とかは行わないのか。

事務局 今回のワークショップは曜日・時間帯のバリエーションを持って複数回開催するなど、参加するための一定の配慮は行っており、意見を直接聞く場として設けている。

委員 各町で声掛けしてもらおうという方法もあると思う。

教育長 小学校が11校存続されるという答申であるので、そこまで興味を持たれていない方が多いのかもしれない。ワークショップに出来る限り多くの方に参加して欲しいが、周知は充分に行っているため、無理矢理の参加にしなくていいのではと思う。

委員 他の自治体ではどのような手法をとられているか分からないが、会議の様子などを聞いて、今回のやり方は良かったのではないかと思う。

市長 ワークショップで直接ご意見を聞くことは、総合計画の策定時にも行ったが大事な過程だと思う。

委員 会で使用するワークシートについて、ある程度、課題となる項目を先に記載しておいた方が、作業の要領が分かりやすく、意見が出やすいのではないかと思う。

事務局 事前に内部で協議を行った際、答申内容が多岐に渡るため、先に項目を記載してしまうと、その内容に意見が偏るのではという議論があって今回の形となった。ご意見として伺いし、第3回目に活かしていきたいと思う。

4 その他